

桜井 万里子 (Mariko Sakurai) 経歴・業績

東京大学名誉教授 (Professor Emerita, University of Tokyo)

博士 (文学) (東京大学・論文博士・1999 年) (学位論文「古代ギリシア社会史研究」)。

PhD. University of Tokyo 1999

#### 《学歴 Education》

1962 年 3月 東京都立両国高等学校卒業  
1966 年 3月 国際基督教大学 (ICU) 教養学部人文学科卒業  
1968 年 3月 東京教育大学 (Tokyo University of Education) 文学部西洋史学科卒業  
1971 年 3月 東京大学 (The University of Tokyo) 大学院人文科学研究科西洋史学専門  
課程修士課程修了

#### 《職歴 Professional Appointments》

1971 年 4月 東京大学 (The University of Tokyo) 文学部助手 (Research Associate)  
1973 年 8月 北海道大学 (Hokkaido University) 文学部助手 (Research Associate)  
1978 年 4月 東京学芸大学 (Tokyo Gakugei University) 教育学部専任講師 (Lecturer)  
1980 年 10月 東京学芸大学 (Tokyo Gakugei University) 教育学部助教授 (Associate  
Professor)  
1981~82 年 スタンフォード大学 (Stanford University) 古典学科客員研究員 (Visiting  
Scholar)  
1992 年 4月 東京学芸大学 (Tokyo Gakugei University) 教育学部教授 (Professor)  
1996 年 4月 東京大学 (The University of Tokyo) 大学院人文社会系研究科西洋史学専  
攻教授 (Professor)  
2004~05 年 ロンドン大学キングズ・カレッジ (King's College London) 客員教授  
(Visiting Professor)  
2006 年 3月 東京大学退職、同大学名誉教授 (Professor Emerita, University of Tokyo)

#### 《学会等における主な役職 Selected Committee Memberships》

- ・ 日本学術会議 会員：第 20 期 (2005-2008 年)、第 21 期 (2008-2011 年)  
連携会員：第 22 期 (2011-2014 年)
- ・ 史学会 編集委員 (1996-2000 年)、理事 (1998-2003 年)、理事長 (2004-2006 年)
- ・ 日本西洋古典学会 常任委員 (1998-2015 年)
- ・ 地中海学会 第 7 代副会長 (2009-2010 年)
- ・ 歴史学会 理事 (1990-1996 年)
- ・ 古代ギリシア文化研究所 会長 (2014 年-現在)

《主な研究業績 Research Publication》

【単著 Books, single authored】

- ・『古代ギリシア人の歴史〈刀水歴史全書 103〉』刀水書房、2024年。
- ・『いまに生きる古代ギリシア〈歴史再発見〉』日本放送出版協会、2007年。
- ・『ヘロドトスとトゥキュディデス—歴史学の始まり〈ヒストリア 23〉』山川出版社、2006年／〈講談社学術文庫〉2023年。
- ・『ソクラテスの隣人たち アテナイにおける市民と非市民〈歴史のフロンティア〉』山川出版社、1997年。
- ・『古代ギリシア社会史研究』岩波書店、1996年／〈岩波オンデマンドブックス〉2014年。
- ・『古代ギリシアの女たち アテナイの現実と夢〈中公新書〉』中央公論社、1992年／〈中公文庫〉2010年。

【編著、共著 Books, co-authored, edited, co-edited】

- ・『集中講義！ギリシア・ローマ〈ちくま新書〉』筑摩書房、2017年（本村凌二と共著）。
- ・『ジェンダーから見た世界史：歴史を読み替える』大月書店、2014年（三成美保、姫岡とし子、小浜正子編、32-39、42-45頁）。
- ・『古代のオリエントと地中海世界〈世界史史料 第1巻〉』岩波書店（歴史学研究会編、第1巻編集委員、「第3章 ギリシア」の導入および複数項目）2012年／〈岩波オンデマンドブック〉2018年。
- ・『友愛と秘密のヨーロッパ社会文化史』東京大学出版会、2010年（深沢克己との共編、第1章「エレウシスの秘儀とオルフェウスの秘儀」33-67頁および「あとがき」）。
- ・『古代地中海世界のダイナミズム』山川出版社、2010年（師尾晶子との共編）。
- ・『性差とは何か—ジェンダー研究と生物学の対話〈学術会議叢書 14〉』財団法人日本学術協力財団、2008年（金澤一郎、原ひろ子、上野千鶴子、辻村みよ子らと共著、「歴史学とジェンダー：古代史」68-73頁）。
- ・『ギリシア史〈各国史 17〉』山川出版社、2005年（編者代表、前半部執筆）／〈YAMAKAWA SELECTION〉2024年。
- ・『古代オリンピック〈岩波新書〉』岩波書店、2004年（橋場弦との共編）。
- ・『西洋世界の歴史』山川出版社 1999年（近藤和彦編、「古代地中海世界」3-46頁）。
- ・『世界史 B』改訂版、三省堂、1998年（西川正雄編）。
- ・『ギリシアとローマ〈中公 世界の歴史 5〉』中央公論社、1997年（本村凌二との共著）／〈中公文庫〉2010年。
- ・『西洋古代史研究入門』東京大学出版会、1997年（伊藤貞夫・本村凌二編、「ギリシア史概説」16-23頁、「女性」59-61頁、「クセニア」61-63頁、「メトイコイ」63-65頁）。
- ・『読んで旅する世界の歴史と文化 ギリシア』新潮社、1995年（西村太良編、「神話と宗

教」76-92頁)。

- ・『地中海世界史』有斐閣、1979年(弓削達編、「2章ポリス市民の生活、1. 古典古代の女性」84-103, 123頁)。

#### 【古典翻訳 Translations of Classics】

- ・『リュシ阿斯 弁論集〈西洋古典叢書〉』京都大学学術出版会、2001年(細井敦子・安部素子との共訳)。
- ・『リュシ阿斯 弁論選』大学書林、1994年(細井敦子・安部素子との共訳)。

#### 【翻訳 Translations】

- ・O. マリー「理性の都市」『思想』901号(1999年)9-29頁。
- ・A. モミリアーノ、他『異端の精神史〈ヒストリー・オヴ・アイディアズ18〉』平凡社、1987年(出村みや子らと共訳)。
- ・E. R. ドッズ、他『進歩とユートピア〈ヒストリー・オヴ・アイディアズ14〉』平凡社、1987年(見市雅俊らと共訳)。
- ・H. レヴィ＝ブリュール「ローマ奴隷制の社会学的理論」M. I. フィンレイ編『西洋古代の奴隷制：学説と論争』(古代奴隷制研究会訳) 東京大学出版会、1970年、215-233頁。

#### 【監訳 Translations, supervised】

- ・J. M. ロバーツ『古代ギリシアとアジアの文明〈図説世界の歴史2〉』(月森左知訳) 創元社、2003年。
- ・ピエール・ブリアン『アレクサンダー大王〈知の再発見双書〉』(福田素子訳) 創元社、1991年。
- ・ロバート・モアコット『古代ギリシア〈地図で読む世界の歴史〉』(青木桃子訳) 河出書房新社、1998年。

#### 【分担執筆論文 Book Chapters】

- ・“Transmission of the Concept of the Public/Private Distinction in Classical Athens”, in Y. Suto (ed.), *Transmission and Organization of Knowledge in the Ancient Mediterranean World*, Wien: Phoibos Verlag, 2021, 225-235.
- ・“The Peplos Scene of the Parthenon Frieze and the Citizenship Law of Perikles”, in T. Osada (ed.), *The Parthenon Frieze: The Ritual Communication between the Goddess and the Polis*, Wien: Phoibos Verlag, 2016, 83-90.
- ・“The Date of IG I<sup>3</sup> 136 and the Cults of Bendis in Fifth Century Athens”, A. P. Matthaiou and R. Pitt (eds.) *Αθηναίων επίσκοπος: Studies in honour of Harold B. Mattingly*, Athens: Greek Epigraphic Society, 2014, 127-135.

- ・「ポリス成立前夜の社会 レラントス戦争の検証」 歴史学研究会編『史料から考える世界史 20 講』岩波書店、2014 年、21-29 頁。
- ・「古代ギリシアの社会をジェンダーの視点から読み解いてみる」 長野ひろ子、姫岡とし子編『歴史教育とジェンダー：教科書からサブカルチャーまで〈青弓社ライブラリー 67〉』青弓社、2011 年、47-59 頁。
- ・「メネステウスとメネデイオス—ベンディス祭祀のアテナイ到来について」 大芝芳弘・小池登編『西洋古典学の明日へ—逸身喜一郎教授退職記念論文集—』知泉書館、2010 年、281-291 頁。
- ・“The Thesmophoria and marital institutions in democratic Athens”, I. Polinskaya and A. Matthaïou (eds.) *Μικρός ιερομνήμων μελέτες εις μνήμην Michael H. Jameson*, Athens: Greek Epigraphic Society, 2008, 41-51.
- ・「古代ギリシアの海港ペライエウスにおける異文化接触」 大津留厚編『古代・中世・近現代ヨーロッパ港湾都市の空間構成と社会動態に関する比較史的研究』（基盤研究 (B) 報告書）77-85 頁。
- ・「古代ギリシアにおける家の継承—後継者確保のための法制と慣行」 辻村みよ子編『ジェンダーの基礎理論と法』東北大学出版会、2007 年、141-155 頁。
- ・「歴史意識の誕生」 内山勝利編『哲学誕生〈哲学の歴史 1〉』中央公論新社、2008 年、665-668 頁。
- ・「ギリシアの世界遺産」 佐藤信編『世界遺産と歴史学〈史学会シンポジウム叢書〉』山川出版社、2005 年、205-217 頁。
- ・「ヘロドトスとトゥキュディデス—歴史叙述の誕生」 川島重成、高田康成編『ムーサよ、語れ—古代ギリシア文学への招待』三陸書房、2003 年、226-233 頁。
- ・「ある銀行家の妻の一生—前四世紀アテナイの女性像」 地中海文化を語る会編『ギリシア・ローマ世界における他者』彩流社、2003 年、203-209 頁。
- ・「古代ギリシアの民主政と戦車」 蓮實重彦著者代表『東京大学公開講座 車』1999 年、159-184 頁。
- ・「シチリア・異形のギリシア世界」 古山正人、本村凌二編『地中海世界と古典文明：前 1500 年～後 4 世紀〈岩波講座世界歴史 4〉』岩波書店、1998 年、89-96 頁。
- ・「ポリス社会における家族と女性」「古典期ギリシアの宗教と政治」 弓削達、伊藤貞夫編『ギリシアとローマ：古典古代の比較史的考察』河出書房新社、1988 年、247-273 頁（=『古代ギリシア社会史研究』「II 女性」第 1 章）、413-439 頁（=『古代ギリシア社会史研究』「I 宗教」第 1 章）。
- ・“The Eleusinian ‘spondai’ (IG I<sup>3</sup>, 6, lines 8-47)”, *Φίλια έπη εις Γεώργιον Ε. Μυλωνάν διά τα 60 έτη του ανασκαφικού του έργου*, 2, Athens: The Archaeological Society at Athens, 1987, 263-65 (A. Raubitschek と共著) .
- ・「古典期アテナイにおける女性の地位と財産権」 弓削達、伊藤貞夫編『古典古代の社会

と国家』東京大学出版会、1977年、183-221頁（＝『古代ギリシア社会史研究』「II 女性」第4章）。

【雑誌論文 Journal articles】

- ・「アテナイ社会における公私二分の意識の浸透について」『史叢』105（2022年）56-41頁。
- ・「大会基調講演 ポリス像の再構築：アテナイの場合」『都市史研究』7号（2020年）44-50頁。
- ・「古代ギリシア・ジェンダー史の可能性」『西洋古典学研究』67巻（2019年）64-67頁。
- ・「史苑の窓 トウキュティスと史料」『史苑』74号（2014年）1-8頁。
- ・「ジェンダー史の可能性—西洋古代史研究の立場から—」『歴史評論』748号（2012年）62-68頁。
- ・「フォーラム「古代史研究から見た西洋史学の将来」に寄せて」『西洋史学』248号（2012年）277-282頁（師尾晶子と共著）。
- ・「オルフェウスの秘儀と古典期のアテナイ：デルヴェニ・パピルス文書を手掛かりに」『西洋古典学研究』58号（2010年）1-11頁。
- ・「古代ギリシアの遺産の継承について—『ブラック・アテナ』の余波のなかで考える」『メトロポリタン史学』6号（2010年）253-270頁。
- ・「古代ギリシア史研究の意義」『史海』54号（2007年）14-23頁。
- ・「講演 空間構造に見るアテナイ民主政成立の背景」『史境』54号（2007年）1-14頁。
- ・「ジェンダー史の方法—古代ギリシアの場合」『ジェンダー史学』1号（2005年）80-88頁。
- ・「ポリス社会の空間構造—アテナイにおける古典期アゴラの成立」『年報都市史研究』12号（2004年）45-54頁。
- ・「論点開示 古代史研究と社会的有用性」『西洋史研究』33号（2004年）150-157頁。
- ・「史料としての古典文献」『西洋古典学研究』51号（2003年）114-121頁。
- ・“Studies on the *hekatostai* inscriptions (*rationes centesimarum*) in Japan”, *KODAI* 10 (1999-2000) 117-123.
- ・「古代ギリシアの民主政を再考する」『史友』31号（1999年）1-15頁。
- ・「古代ギリシア史研究の新しい潮流」『思想』901号（1999年）4-8頁。
- ・“A New Reading in POxy XIII 1606 (Lysias, *against Hippotherses*)”, *Zeitschrift für Papyrologie und Epigraphik* 109 (1995) 177-180.
- ・“The Eleusinian *spondai* and the Delian League”, *KODAI* 5 (1994) 27-36.
- ・「前5世紀アテナイの市民とメトイコイ—政治モラルのダブル・スタンダード—」『東京学芸大学紀要 第3部門 社会科学』45号（1994年）275-296頁。
- ・「反寡頭派戦争」の帰結とアテナイ社会：前403年の「和解協定」をめぐって」『西洋古

- 典学研究』40号（1992年）22-32頁（＝『古代ギリシア社会史研究』「III 他者」第2章）。
- ・「古典期アテナイにおける市民にとっての他者--その他者認識の変容とトラシュブロスの第一決議」『歴史学研究』594号（1989年）46-63頁（＝『古代ギリシア社会史研究』「III 他者」第1章）。
  - ・「「雅量」の人・キモン—そのエートスのアテナイ民主政における位置—」『ペディラヴィウム』28号（1988年）1-11頁（＝『古代ギリシア社会史研究』付論）。
  - ・「古代ギリシャのアテナイにおける姦通法（研究ノート）」『東京学芸大学紀要 第3部門 社会科学』38号（1986年）、119-133頁（＝『古代ギリシア社会史研究』「I 宗教」第4章）。
  - ・「古代ギリシア女性史研究—欧米における最近の動向—」『歴史学研究』552号（1986年）、33-45頁。
  - ・「古典期アテナイの国家祭儀と地方祭儀—テスモフォリア祭について」『史潮』18号（1985年）4-18頁（＝『古代ギリシア社会史研究』「II 女性」第2章）。
  - ・「エレウシスの秘儀とポリス市民」『史境』8号（1984年）29-37頁。
  - ・「古代ギリシア・アーケイック期初期の植民活動—ギリシア人と先住民—」『歴史と地理』345号（1984年）1-14頁。
  - ・「古典期アテナイのエピクレオロス制度とオイコスの存続」『史潮』9号（1981年）64-80頁（＝『古代ギリシア社会史研究』「II 女性」第3章）。
  - ・「エレウシニア祭と二枚の碑文（IGI<sup>2</sup> 5, ISS 10 A）」『史海』27号（1980年）1-18頁（＝『古代ギリシア社会史研究』「I 宗教」第3章）。
  - ・「アテナイのエレウシス併合について」『東京学芸大学紀要 第3部門 社会科学』30号（1979年）、201-209頁。
  - ・「エレウシスの祭儀とアテナイ民主政の進展」『史学雑誌』82編10号（1973年）1-41頁（＝『古代ギリシア社会史研究』「I 宗教」第2章）。

【主な書評、小論など Reviews, Interviews and other publications】

- ・「学術の風景 40 古代ギリシアの民主政と現代世界における「民主」の行方」『学術の動向』29巻1号（2024年）6-8頁。
- ・「あとがき」周藤芳幸編『古代地中海世界と文化的記憶』山川出版社、2022年、445-448頁。
- ・「書評：栗原麻子著『互酬性と古代民主制：アテナイ民衆法廷における「友愛」と「敵意」』」『西洋史学』272号（2021年）209-211頁。
- ・「書評：浦野聡編『古代地中海の聖域と社会』勉誠出版、2017年」『史苑』78巻（2018年）259-264頁。
- ・“Foreword (Proceedings of the Second Euro-Japanese Colloquium of the Ancient Mediterranean

- World: Social Norms and Public Sphere (held at University of Tokyo in 2009.3.27-29)”, KODAI 16 (2015), 1-4.
- ・「古代ギリシア文化研究所開設について」『かいほう』126号（2015年）6-7頁。
  - ・「古代ギリシアの女性神官たち〈春期連続講演会「地中海世界を生きる II」講演要旨〉」『地中海学会月報』373号（2014年）
  - ・「『アテナイ人の国制』の歴史叙述」『アリストテレス全集 月報』8巻（2014年）、1-4頁。
  - ・「解説：『戦史』が拓く地平」トゥキュディデス『戦史〈中公クラシックス〉』（久保正彰訳）中央公論社、2013年、1-20頁。
  - ・「本村報告へのコメント〈シンポジウム「Μηδὲν ἄγαν,デルポイからのメッセージ〉」『西洋古典学研究』61号（2013年）121-124頁。
  - ・「書評：Christiane Sourvinou-Inwood, *Athenian Myths and Festivals: Aglauros, Erechtheus, Plynteria, Panathenaia, Dionysia*, Pp. xiii+377, Oxford UP, 2011」『西洋古典学研究』61号（2013年）141-144頁。
  - ・「古代ギリシアの古典・古代ギリシアについての古典〈歴史家の本棚、第II架（20）〉」『日本古書通信』2012年8月号、7頁。
  - ・「オルフェウス教かオルフェウスの秘儀か」『UP』40号（2011年）34-39頁。
  - ・「クセノポンとスパルタ史」『西洋古典叢書 月報』84号（2011年）2-5頁。
  - ・「グローバル化時代の歴史認識：古代ギリシア人の自己認識という視座から考える〈報告、公開シンポジウム「越境する歴史学と歴史認識」、第一〇八回史学会大会報告〉」『史学雑誌』120編1号（2011年）86-87頁。
  - ・「これからの大学学部における歴史教育」『学術の動向』16巻10号（2011年）7頁。
  - ・「大学における歴史教育の現在とこれから」『学術の動向』16巻10号（2011年）8-10頁。
  - ・「表紙の顔」『学術の動向』16巻1号（2011年）3頁。
  - ・「古代ギリシアの社会をジェンダーの視点から読み解いてみる」『学術の動向』15巻5号（2010年）62-63頁。
  - ・「アテナイの元気な女性たち〈春期連続講演会「地中海世界の女性たち」講演要旨〉」『地中海学会月報』321号（2009年）
  - ・「学術分野における男女共同参画促進のために」『学術の動向』14巻7号（2009年）9頁（辻村みよ子と共著）。
  - ・「歴史認識問題と国際関係」『学術の動向』14巻3号（2009年）69頁。
  - ・「「社会のための科学」(Science for Society)と「科学のための科学」(Science for Science)」『学術の動向』14巻1号（2009年）9-26頁（金澤一郎、大垣真一郎、鈴村興太郎、唐木英明と共著）。
  - ・「桜井万里子・姫岡とし子対談インタビュー：ジェンダー史学を語る」『クリオ』23号

- (2009年) 44-64頁 (姫岡とし子と共著)。
- ・「ヨーロッパ、古代、ギリシア〈二〇〇七年の歴史学界—回顧と展望—〉」『史学雑誌』117編5号(2008年) 946-950頁。
  - ・「人口」に内在する国家の論理とジェンダーの視点」『学術の動向』13巻4号(2008年) 8-9頁。
  - ・「巡礼と観光—瀬戸内海と地中海〈地中海学会大会 地中海トーキング要旨〉」『地中海学会月報』305号(2007年)。
  - ・「総説〈二〇〇五年の歴史学界—回顧と展望—〉」『史学雑誌』115編5号(2006年) 1-5頁。
  - ・「書評：P. J. Rhodes & R. Osborne, eds., *Greek Historical Inscriptions 404-323 BC.*, Pp. xxxii+594, Oxford University Press, 2003」『西洋古典学研究』54号(2006年) 141-144頁。
  - ・「ギリシア史研究への導き」『学術の動向』11巻4号(2006年) 89頁。
  - ・「ジェンダー史の可能性」『かいほう』90号(2006年) 6-7頁。
  - ・「共同討議 ギリシア悲劇と〈女性〉(特集〈ギリシア悲劇〉と〈犯罪〉)」『劇場文化』8号(2005年) 192-221頁(竹村和子、水田宗子と共著)。
  - ・「総説〈二〇〇四年の歴史学界—回顧と展望—〉」『史学雑誌』114編5号(2005年) 579-583頁。
  - ・「追悼：ジェイムスン先生を偲んで」『かいほう』82号(2004年) 6-7頁。
  - ・「編集を終えて」史学会編『歴史学の最前線』東京大学出版会、2004年、275-279頁。
  - ・「インタビュー：桜井万里子教授に訊く」『クリオ』17号(2003年) 35-46頁。
  - ・「書評：仲手川良雄著『古代ギリシアの自由と正義：思想・心性のあり方から国制・政治の構造へ』, 創文社, 一九九八・一刊, A5, 六二八頁, 一一五〇〇円」『史学雑誌』111編10号(2002年) 1690-1698頁。
  - ・「パンヘレニックな神域(デルフォイとオリュンピア)成立の歴史的背景(第九八回史学会大会報告記事)」『史学雑誌』109編12号(2000年) 2240頁。
  - ・「コラム〈歴史の風〉ムネモシュネとアムネスティア」『史学雑誌』109編3号(2000年) 364-366頁。
  - ・「古代ギリシアと地中海世界〈春期連続講演会「地中海世界の歴史：古代から中世へ」講演要旨〉」『地中海学会月報』231号(2000年)。
  - ・「新刊紹介：橋場 弦著, 『丘のうえの民主政：古代アテネの実験』, 東京大学出版会, 一九九七・一刊, 四六, 二三一頁, 二八〇〇円」『史学雑誌』107編7号(1998年) 1371-1372頁。
  - ・「古代ギリシアにおける医術と女性」『順天堂医学』42号(1997年) 536-537頁。
  - ・「ヨーロッパ、古代、ギリシア〈一九九六年の歴史学界—回顧と展望—〉」『史学雑誌』106編5号(1997年) 973-977頁。
  - ・「大会・シンポジウム参加記 2：第20回歴史学会」『史潮』40号(1996年) 74-76頁。

- ・「留学記：フォンダシオン・ハルトについて」『かいほう』53号（1995年）1-3頁。
- ・「書評：D. COHEN, *Law, Sexuality, and Society; The enforcement of morals in classical Athens.*, Pp. xii+259, Cambridge U. P., 1991, £35.00 (hardcover)」『西洋古典学研究』42号（1994年）114-117頁。
- ・「訪問インタビュー：『古代ギリシアの女たち』（中公新書）をめぐって—桜井万里子氏に聞く（聞き手 森谷公俊）」『かいほう』43/44号（1993年）3-6頁。
- ・「文化人類学と社会・文化史（方法論）」『歴史学研究』618号（1991年）5-7、47頁。
- ・「新刊紹介：エヴァ・クールズ著 中務哲郎・久保田忠利・下田立行訳『ファロスの王国：古代ギリシアの性の政治学』一、二巻：岩波書店 A5 一巻 一九八九・一一刊 二七八頁 二巻 一九八九・一二刊 二五二頁」『史学雑誌』99編4号（1990年）554-556頁。
- ・「書評：LORAU, N., *Les enfants d'Athene; Idees atheniennes sur la citoyennete et la division des sexes.*, Pp.287., Francois Maspero, Paris, 1981」『西洋古典学研究』36号（1988年）109-111頁。
- ・「大会参加記：第10回歴史学会」『史潮』20号（1986年）50-51頁。
- ・「新刊紹介：三浦一郎・長谷川博隆著『世界子どもの歴史2：古代ギリシア・ローマ』, 第一法規出版, 一九八四・一二刊, A5, 二五四頁, 二六〇〇円」『史学雑誌』94編6号（1985年）1097-98頁。
- ・「書評：SCHAPS, D. M., *Economic Rights of Women in Ancient Greece.*, Pp. 165, Edinburgh, 1979」『西洋古典学研究』30号（1982年）129-132頁。
- ・「ヨーロッパ、古代、ギリシア〈一九七九年の歴史学界—回顧と展望—〉」『史学雑誌』89編5号（1980年）823-828頁。
- ・「書評：PARKE, H. W., *Festivals of the Athenians (Aspects of Greek and Roman Life).*, Pp. 208, Thames and Hudson, London, 1977」『西洋古典学研究』28号（1980年）115-118頁。
- ・「書評：CONNOR, W. R., *The New Politicians of Fifth-Century Athens*, Pp. xii+218, Princeton University Press, 1971」『西洋古典学研究』22号（1974年）114-116頁。

#### 《主な獲得研究費 Research Grant, Selected》

- ・科研費挑戦的萌芽研究「デルヴェニ・パピルスの解読・翻訳—古代ギリシアにおける多神教と一神教の関係」研究代表者（2013-2015年度）
- ・科研費基盤研究(B)「歴史教育におけるジェンダー視点の導入に関する比較研究と教材の収集及び体系化」分担者（代表者三成美保、2012-2014年度）
- ・科研費基盤研究(A)「パルテノン神殿の造営目的に関する美術史的研究—オリエント美術の受容と再創造の検証」分担者（代表者長田年弘、2011-2014年度）
- ・科研費基盤研究(A)「パルテノン神殿の造営目的に関する美術史的研究—アジアの視座から見たギリシア美術」分担者（代表者長田年弘、2007-2009年度）
- ・科研費基盤研究(B)「ギリシャ政治哲学の総括的研究」分担者（代表者加藤信朗、2007-2010年度）

- ・ 科研費基盤研究(B)「古代地中海世界における規範と公共性の比較文化史的研究」研究代表者 (2007-2009 年度)
- ・ 科研費基盤研究(B)「ローマの政治・思想・修辞学が古典古代の文学に及ぼした影響」分担者 (代表者逸身喜一郎、2006-2009 年度)
- ・ 科研費基盤研究(B)「ヨーロッパにおける宗教的・密儀的な団体・結社に関する比較社会史的研究」分担者 (代表者深澤克己、2005-2007 年度)
- ・ 科研費基盤研究(B)「古代・中世・近現代ヨーロッパ港湾都市の空間構成と社会動態に関する比較史的研究」分担者 (代表者大津留厚、2005-2007 年度)
- ・ 科研費基盤研究(B)「ギリシアにおけるポリスの形成と紀元前 8 世紀の東地中海世界」研究代表者 (2002-2004 年度)
- ・ 科研費基盤研究(B)「古典古代史の近年の動向に対応したギリシャ・ローマ思想史ならびに文学史の書きかえ」分担者 (代表者逸身喜一郎、2002-2005 年度)
- ・ 科研費基盤研究(A)「地中海世界における社会変動と識字率」分担者 (代表者本村凌二、2001-2004 年度)
- ・ 科研費基盤研究(B)「西欧の歴史世界とコミュニケーション」研究代表者 (1998-2000 年度)
- ・ 科研費国際学術研究「パルテノン神殿の造営目的に関する美術史的実地調査」分担者 (代表者水田徹、1994-1996 年度)
- ・ 科研費総合研究(A)「西洋古代における習俗・文化と社会意識」研究代表者 (1991-1992 年度)
- ・ 科研費一般研究(C)「全ギリシア的祭典古代ギリシアの国際関係に及ぼした影響に関する研究」研究代表者 (1986 年度)

《主催国際学会 Organised International Conferences》

- ・ 第 3 回日欧古代地中海世界コロキウム The 3rd Euro-Japanese Colloquium on Ancient Mediterranean World (2014 年 4 月 25 日-26 日、British School at Athens (アテネ、ギリシャ共和国)、佐藤昇 (神戸大学)、Catherine Morgan (BSA)、Robert Pitt (BSA) と共催)
- ・ 第 2 回日欧古代地中海世界コロキウム The 2nd Euro-Japanese Colloquium on Ancient Mediterranean World (2009 年 3 月 27 日-29 日、東京大学山上会館、橋場弦 (東京大学)、Catherine Morgan (KCL) と共催)
- ・ 第 1 回日欧古代地中海世界コロキウム The 1st Euro-Japanese Colloquium on Ancient Mediterranean World (2005 年 3 月 16 日-18 日、London University, Senate house (ロンドン、英国)、Catherine Morgan (KCL)、Charlotte Roueché (KCL) と共催)